

奈良女子大学附属中等教育学校

2024 年度公開研究会・SSH 研究成果発表会

「探究」的な学びを育む

カリキュラムデザインと評価をめぐって

—「6 年一貫共創型探究カリキュラム」の成果と課題を軸に—

《キーワード》

主体的・対話的で深い学び, カリキュラム・マネジメント, SSH, 「飛躍知」, 「共創型探究」,
個別最適な学び, 協働的な学び, 学習評価

【開催日程】2025 年 2 月 14 日(金)・15 日(土)

【会場】奈良女子大学講堂[14 日(金)], 奈良女子大学附属中等教育学校[15 日(土)]

【主催】奈良女子大学附属中等教育学校, 奈良女子大学

【共催】奈良国立大学機構連携教育開発センター, 奈良女子大学教育システム研究開発センター

【後援】奈良県教育委員会, 奈良市教育委員会

《当日のプログラムとタイムテーブル》 ※1 日目と 2 日目で会場が異なりますのでご注意ください

2 月 14 日(金)「全体会」		2 月 15 日(土)「生徒探究成果発表会」「公開授業・Zone」		
12:30	受付(於:奈良女子大学講堂)	9:00	受付(於:奈良女子大学附属中等教育学校)	
13:00~13:10	開会行事	9:30~11:30	生徒探究成果発表会 4 年(高 1)「基盤探究Ⅰ」 5 年(高 2)「基盤探究Ⅱ」 6 年(高 3)「実践探究(PICASO)」	
13:10~13:45	本校第Ⅳ期 SSH 事業および成果報告			
13:45~14:45	基調講演 石井 英真氏(京都大学)			
14:45~15:00	(休憩)	11:30~12:40	昼休憩 ※休憩中に生徒の発表ポスターをご覧いただけます	
15:00~15:20	実践報告 酒井 淳平氏(立命館宇治中学校・高等学校)			
15:20~16:10	パネルディスカッション 「探究的な学びを育むカリキュラムと評価をめぐって」	12:50~13:55	公開授業 3 年(中 3)英語, 3 年美術 5 年(高 2)数学 5 年社会(地理)	Zone テーマ:教科融合
16:10~16:30	(休憩・移動)	14:00~15:00	研究協議	
16:30~17:30	意見交流会			

< 第Ⅳ期 SSH5 年間の成果報告、および「探究」的な学びを育むカリキュラムデザイン・評価をめぐる「対話」 >

第Ⅳ期 SSH 研究開発主題

「科学技術イノベーションにより未来社会を創出する『飛躍知』を育むカリキュラム開発」

本校では、2020 年度より第Ⅳ期 SSH 研究開発指定を受け、2024 年度最終年度を迎えます。第Ⅳ期 SSH では、「飛躍知」（「視点の飛躍」「手法の飛躍」「発想の飛躍」）の育成をキーワードに、「教科領域における探究」「共創型探究活動」の 2 つを軸とする「6 年一貫共創型探究カリキュラム」の開発および実践を進めてきました。また、探究活動の目標・評価基準としての「課題研究ロードマップ」の作成や、生徒個人のポートフォリオとしての「探究カルテ」の作成など、「6 年一貫共創型探究活動」を支える指導・評価方法の開発および実践も進めてきました。全体会ではまず、第Ⅳ期 SSH 事業における取り組みとその成果について報告します。

続いて、この間本校 SSH 運営指導委員も務めてくださった石井英真先生より、現行学習指導要領における「探究」的な学びや評価の方向性、および今後の動向等についてご講演いただきます。また、中学校・高等学校の現場で探究カリキュラムの開発や実践に携わってこられた酒井淳平先生より、勤務校での取り組みを中心にご報告いただきます。その後、両先生と本校教員によるパネルディスカッションを行います。全体会の最後には、ご参会の皆様が日頃の実践や「悩み」について少人数で意見を交わしていただく場を設定します。

以上のプログラムを通じて、この間本校が進めてきた研究開発とも関連づけながら、「探究」的な学びを育むカリキュラムデザインおよび評価のあり方をめぐって、ご参会の皆様とともに学びを深めたいと考えています。

生徒探究成果発表会 2月15日(土)9:30~11:30

本校では、「6 年一貫共創型探究カリキュラム」のもと、各学年の「総合的な学習（・探究）の時間」で課題研究を進めています。本研究会では、生徒の 1 年間の探究活動の成果発表（ポスター発表・スライド発表）をご覧ください。

【当日の発表科目・類型の概要】

○4 年(高 1)「基盤探究Ⅰ」

個人ないし少人数グループが 8 つの講座に分かれ、それぞれのテーマに基づく探究に 1 年間取り組みます。

○5 年(高 2)「基盤探究Ⅱ」(科学探究類型・社会貢献類型)

個人ないし少人数グループで、自然科学・人文科学領域の探究や、社会的課題の解決に向けた活動に 1 年間取り組みます。

○5 年(高 2)「基盤探究Ⅱ」(コロキウム類型)

「リベラルアーツ」育成を見据えた少人数による「対話型(ゼミ形式)」探究に取り組みます。

※本研究会では、各教員がテーマを設定して開講する講座のうち、一部講座の発表をご覧ください。

○6 年(高 3)「実践探究(PICASO)」

2019 年度より、奈良女子大学と協働して「高大接続文理統合探究プログラム(略称 PICASO)」を開講しています。

奈良女子大学教員と本校教員の指導のもと、各自の探究テーマに取り組みます。

公開授業・研究協議／Zone 2月15日(土)12:50~15:00

< 英語科 3 年(中 3) Topic Studies I >

「読み手を意識したライティングの授業」

【授業者】井上 真唯也

【指導助言者】山下 美朋氏(立命館大学 教授)

【概要】1. 読み手を意識した英文を書く力を育成したい。

2. 「書く前、書く段階、書いた後」の各プロセスを行き来しながら、粘り強く自分の英文を仕上げる力を育てたい。

3. 生徒一人ひとりの違いに応じた気づきを促したい。

以上の課題意識を踏まえ、今回の公開授業では「書くこと」に焦点を当てた授業を実施します。公開授業を行う 3 年生英語では、Topic Studies (以下、TS) と Writing という 2 つの授業でシラバスを構成しています。TS では、生徒の身近なトピックを中心に据え、4 技能を有機的に関連させながら、総合的なコミュニケーション能力の向上を目指しています。加えて、Writing では、論理的でまとまりのある様々なパラグラフタイプの英文を産出する力の育成を試みています。

今回は様々なトピックを扱う TS 授業における書く活動において、Writing で学んだスキルを活かしつつ、読み手を意識して粘り強く英文を書く生徒をいかに育てるのかについて考えたいと思います。

< 創作科 3年(中3) 美術 >

「余白を描く―俳画で表現するところ―」

【授業者】藤井 真希

【指導助言者】長谷 圭城氏(奈良女子大学 教授)

【概要】中国の水墨画には、画讃として漢詩を添えた作品が数多く残っている。詩が画に奥行きを与え、画が詩に視覚的な広がりをもたらすことで、両者が一体となって独特の表現を生み出す。一方、水墨画を用いた日本流の「詩画一体」形式の作品といえば、与謝蕪村に代表される「俳画」であろう。俳句が自然や季節の瞬間を捉えるように、俳画もまた素早く描かれたものが多く、作者の心が動く瞬間が作品に立ち現れる。

この授業では、3年生の生徒達が俳画の制作に挑戦する。まず、国語で漢詩、和歌、俳句について学び、次に書写で「ちらし書き」などの意図に合わせた文字のデザインについて実習を行う。美術では水墨画の技法を、模写を通じて習う。自らの心情が表れるような画について構想を練った上で、その画と響き合う季語、俳句を探し、画面上での画と文字の配置を決定する。それぞれの構想をもとに、授業内で俳画を完成させるという流れである。墨の濃淡やリズムを楽しみ、生徒が自らの内面を深く洞察し表現することを目指す。

< 数学科 5年(高2) 解析Ⅱ >

「数学の授業における探究的学習―Iのn乗根からはじめる複素数平面―」

【授業者】川口 慎二

【指導助言者】篠田 正人氏(奈良女子大学 教授)

【概要】新学習指導要領では数学Cに「複素数平面」が配置され、複素数の演算という代数的操作と図形の諸性質という幾何的対象を関連付けて考察する方法を学習する。さらには、大学入学共通テストにおいても数学②『数学Ⅱ、数学B、数学C』の出題領域の1つとなり、これまでの理系選択者に加えて、一部の文系選択者にも学習の必要性が生じている。

今回の公開授業では、複素数や高次方程式、解析幾何、数列およびベクトルの学習を終えた5年生を対象に、Iのn乗根を題材に複素数平面の導入を図る。代数的に得たIのn乗根を複素数平面に表現することにより、極形式やド・モアブルの定理、回転操作と複素数の積の関係などを発見的・探究的に学習することを目的とする。その際、三角関数の加法定理や数学的帰納法などの既習内容を総合的に活用して解決を目指すこと、および協働して課題に取り組むことを意識させる。

< 社会科 5年(高2) 地理探究 >

「生徒が紡ぐ地理探究を軸とした教科等横断的な学び」

【授業者】出羽 一貴

【指導助言者】高田 将志氏(奈良女子大学 学長)

【概要】学校教育におけるSTEAM教育等の教科等横断的な学力の推進(中央教育審議会答申,2021)が求められる中、現場ではこの理念を実践に落とし込むことに苦慮している。探究活動においては、産学連携や問題解決型(PBL)の課題に取り組むなど「社会に開かれた教育課程」の実践がなされてきた。また、教科・科目の授業実践形態としては、他教科・科目の教員とのコラボレーション授業が行われてきた。しかし、これらの実践では、時間的制約が大きな課題となってきた。そこで今回は、普段の授業に内在している教科等横断的な学びの発見を目的とした授業実践を行う。地誌学習という地理的なものの見方、考え方が求められる単元において、思考の過程を可視化し、アプローチ可能な教科等横断的な学びを生徒が主体となって紡ぎ、その先にある学びの広がりや深まりを目指す。

< Zone > ※授業の公開はありません。研究協議の時間と合わせて、12:50~15:00で行います。

「教科にとらわれない授業実践～既存の枠組みに捉われない自由な発想を目指して～」

【企画・担当者】本校理科教員(鶴飼、櫻井、田中、牧野、松原)、本校他教科教員

【概要】現代の教育において、教科の枠組みに捉われない「教科横断型授業」がますます重要視されています。複数の領域にまたがった授業を展開することで、多角的な視点から問題をとらえる機会となり、深く幅広い思考力や問題解決能力を養うことが期待されます。しかし、その題材を考えるためには、教員の持つ単一教科の専門性のみでは賅いきれない部分もあり、他教科専門の教員とのネットワークが不可欠になると考えます。

このZoneでは、ご来場くださいました先生方と「教科横断型授業」の在り方を模索し、情報交換や議論の場にするともに、先生方のネットワーク構築の場にすることを目的としています。様々な教科の先生方の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

【本研究会について】 ※最新情報は、本校ホームページをご覧ください。

《参加対象者》 (1) 初等・中等教育(小・中・高)などの教員 (2) 中等教育を対象とする学習活動を展開されている方
(3) 教員を志望されている学生・大学院生 (4) 研究者
(5) その他、教育に関心をお持ちの方

《参加費》 無料

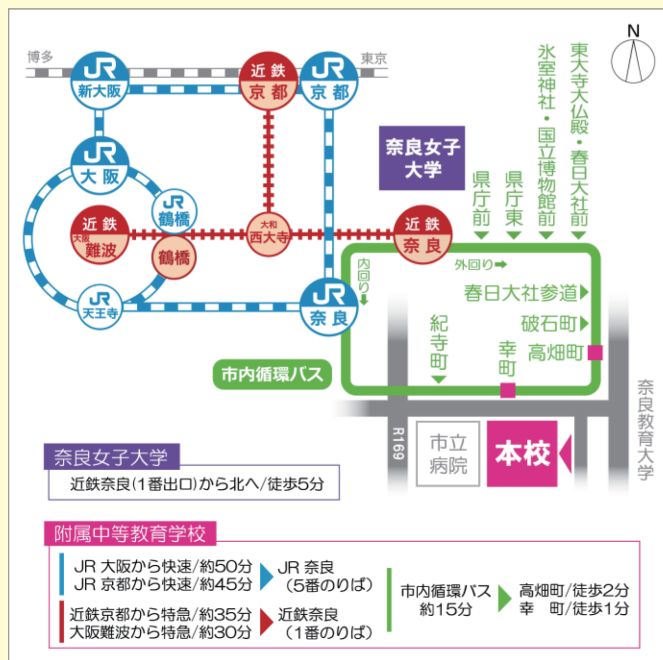
《その他》 両日とも、公共交通機関でお越しください。また、両日とも、昼食はお済ませの上お越しいただくか、各自ご準備ください。

《お問い合わせ》 〒630-8305 奈良市東紀寺町一丁目 60-1

電話番号:0742-26-2571

担当者:藤井 正太(研究部主任) メール:fujii-s@cc.nara-wu.ac.jp

【アクセス】



【参加申し込み】

下記 QR コード(申し込みフォーム)よりお申し込みください。
本校ホームページからもお申込みいただけます。

<https://forms.gle/X1RqdwREjKTS3bgi8>



締切:2月5日(水)

奈良女子大学構内図

A, B, C, D, E, F, G, H, N, S 棟の表記は総合研究棟です。

14日(金)の会場は、奈良女子大学です。
受付・会場は講堂です。
東門よりキャンパスにお入りください。

